

持続可能な社会の実現に向けて：
国際社会における取組課題を中心に
(講演要旨)

国連大学
サステイナビリティ高等研究所
所長 竹本和彦

近年「持続可能性」は、国際社会においてキーワードとなってきた。

1992年リオ・デ・ジャネイロにおいて開催された「環境と開発に関する国連会議」(通称「地球サミット」)では、世界各国の首脳が「持続可能な開発」の実現に向け「リオ宣言」に合意した。その後2002年にはヨハネスブルグで、また2012年には再びリオ・デ・ジャネイロにおいて、国連は持続可能な開発に関する世界会議を開催し、それまでのレビューを行うとともに、更なる行動の実施を約束していることは記憶に新しい。また本年9月には、ニューヨークにおいて「国連サミット」を開催し、2015年以降の持続可能な開発のあり方について首脳レベルの議論を踏まえ、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を採択することとなっている。

このような持続可能な開発に関する議論の進展を踏まえ、国連をはじめとする国際社会は様々な取組を展開しているところである。国連大学は日本に本部を置く唯一の国連機関として、かねてよりサステイナビリティの課題に取り組んできているが、とりわけ2014年1月に発足した国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)では、(a) 持続可能な社会への転換、(b) 自然資本と生物多様性(自然との共生含む)、(c) 地球環境の変化とレジリエンス、の領域に焦点をあてた政策志向型研究の推進により国連のHigh-levelの政策討議に貢献していくことをその使命としている。

本講演においては、持続可能な社会実現に向け、高等教育・研究機関としての大学が果たすべき役割を視野に入れつつ、持続可能性に関する世界的議論の動向及び国際社会における取組状況についての最新情報を共有するとともに、国連大学がこうした国際社会が直面する政策課題の解決にどのように貢献しているのかなどについて論ずる。